

## 「心地良い」存在でありたい！

### JSC 貿易部ニュース 中国編

いつもお世話になります。  
毎号当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます。  
ございます。

写真は中国の子供が作った「雪だるま」ならぬ、  
『雪ビンドゥンドゥン』です。力作ですねー。  
ほっこりした感じが心地良いです！



しかし、この『ビンドゥンドゥン』の雪だるまが作られたのは福建省。  
冬とは言え、これまでの長い渡航歴の中でも福建省で雪を見たことがない私。暑い印象の福建省で「雪だるま」、これも異常気象の影響なののでしょうか？  
心配事の多い今日この頃です。

地球は丸く全てが繋がっています。世界が平和であることを願うばかりです！

さて、長い春節休みがあり新しい石材の話題も少ないので、冬季オリンピックのお話を少し。2022年2月4日～20日の日程で17日間に渡り、北京・延慶・張家口の3つのゾーンを舞台に繰り広げられた「北京2022オリンピック」

世界各国から集まったトッププレイヤーたちの感動的なパフォーマンスに浸った17日間でした。3月4日からは引き続き「北京2022冬季パラリンピック」が開催されます。こちらもしっかりと応援していきたいと思います。

さて、中国で開催された初めての冬のオリンピック。コロナ対策の厳戒態勢の中、ドーピング疑惑や判定問題などに揺れた部分もありましたが、素晴らしいパフォーマンスで大きな感動を残してくれた選手たちもたくさんいました。

今月は春節明けで現地工場や石材の話題に乏しく誌面に余裕があるので、個人的にファンで、今大会も大いに印象に残ったひとりの選手についてご紹介したいと思います。

私は、自分自身が決めた「価値」のために静かに真っすぐに競技に取り組む選手が大好きです。自分自身が求める「理想」や「領域」に辿り着くために10年も20年も過酷で地味なトレーニングを自分自身に課して、この舞台に立つ選手には敬意を感じずにはられません。今回の代表選手の中にも、静かに、そしてひたむきに、自分個人の人的成長と技量の進化という価値を積み重ね続ける選手たちがいました。そんな選手の中でも私が最も尊敬するのは、スピードスケートの小平奈緒選手です。

小平選手と言えば、前回の平昌オリンピックでの、韓国 李相花（イ・サンファ）選手との思いがけない友情物語に注目が集まりました。李相花選手の500mの3連覇を阻んだのですが、ライバルであるふたりの間にあんなに固い友情があったとは誰も想像しなかったのではないのでしょうか。アスリートとして同じ価値観を共にする者同士だったのでしょうか。

数年前まではワールドカップをはじめとする国内外のレースで負け知らずの連勝を積み重ねてきた小平選手ですが、今回の北京では500mで17位、1000mでも10位と、ケガの影響もあり望んだような結果は残せませんでした。しかし、そんな中でも彼女は彼女らしい競技者としての姿勢で「心地良い存在感」を残してくれました。

1000mのレースが終わったその日、小平選手は大会をこう振り返っています。「成し遂げることはできずとも、自分なりにやり遂げることはできたと思っています」「この4年間、どこまで行けるんだろうと信じてくださった方々や、立ち止まりそうになるたびに温かい言葉をかけてくださった皆さんに何度も救われてきました」とインスタグラムに投稿。続けて「この舞台のスタートラインに着くことができるように支えてくださった皆さん、ゴールまで一緒に歩みを進めてくださった皆さん、ありがとうございます」と感謝の言葉を記し、「心も身体も、今ここにあるものは全て使い果たせたと思います。4年間全てを含んで、弱みを抱えながら挑むというのはとても苦しかったです。最後の最後まで、本当に試される事が多くて、自分が今どうあるべきか、目の前の事にどう向かうべきか思考を巡らせる日々でした」と。

そして、「『受け入れる』それが最大の処方箋でした。生きている限り、生きることに向かうことで見えてくる未来もきっとあると思います」と記し、最後に「カタチには何も残らない五輪でしたが、この先もそよ風のように『あ、今の風心地良かったな』とっていただける存在でいられたら幸いです」と締めくくっています。

そして、もう一つ彼女の人柄を感じさせる記事をスポニチアネックスで目にしましたので紹介したいと思います。

大会終盤、自身としても五輪最後の1000mのレースを滑り終えた小平選手は、同レースで五輪新をたたき出し、精魂尽き果てた状態で座り込んでいた高木選手から1mほど離れた場所に腰を下ろした。2人の間にどんな時間が流れていたのかはわかりません。最終組が滑り終わり、高木美帆選手の金メダルが決定した瞬間、そっと静かに離れていく小平選手。握手を求めたり、抱きしめたり、声をかけることもしませんでした。そっけないなど見えた人もいるかもしれません。

記事によると、「小平はその瞬間が勝者だけのものであることを知っていたのだろう。そして高木を先に称えるべきなのは僅差で敗れたユッタ・レールダム（オランダ）やブリタニー・ボウ（米国）であるべきことも。一度離れた小平は順番を待って、勝者に近寄ると抱き寄せて『おめでとう。ナイスレース』と声を掛けた」。（スポニチアネックス、2022年2月18日）

ハグの場面だけなら、わたしたちもテレビで見ました。しかし、それを「順番を待って」と見たのは現場にいた記者さんの慧眼だと思います。

成し遂げたことに対して周囲は賛辞を送ってくれますが、やり遂げたことは自分の中にか残りません。小平選手にとってもやり遂げたと納得出来ることはメダルの色と同じくらいか、それ以上に重要なことだったのではないのでしょうか。孤高の美しさ。小平奈緒選手は敗れてもなお、強かった！

さて、個人的なお話ばかりしていると怒られますので、中国石材業界のお話も。



オリンピックの影響が出るかと思いきや、中国南部の人々はあまりオリンピックに興味がなかったのか??

大きな波乱もなく、春節休みに閑散としていた工場が再開に向けて活気を取り戻しつつあります。

寒波やコロナの影響もあってか職人さんの帰りは遅れているものの、予想通りとえば予想通りの雰囲気ですが、困ったことに去年からどの工場も原石の調達が上手くいっておらず、常に在庫不足の状態が続いています。

5年前、10年前のように各石材工場に原石在庫が潤沢にあったときは、品質や価格条件の良いところを選んで交渉や発注をするということができたのですが、今のように原石を持っている工場がない、持っていてごく限られた工場しか持っていないというような時は本当に困ります。特にコロナ以降は、品質や価格条件が合わないのに、その工場しか石を持っていない、というようなことがどんどん増えてきています。そうすると品質を維持するのも並大抵ではありません。

当社の場合、品質管理のために工場の自主検品に加え、自社の検品員がダブルチェック、トリプルチェックに入ります。しかし、近年は工場の品質基準と日本の石材店様の品質基準に大きな隔たりがでてきており、生産途中の段階から丁々発止のやり取りが続きます。検品員にとってもストレスの掛かるやり取りが増えてきており、苦勞の掛け放しです。JSC 貿易には、10名の自社検品員がいます。15年、20年という社歴の社員で構成され、崇武事務所と南安事務所に分かれて各地域の工場を巡回して指導や検品を担当してくれています。質、量ともに墓石業界随一の精鋭達です。

近年は、石材工場の品質に対する意識や改善意欲が低下してきており、修正ややり直しなども一筋縄ではいかないケースが増えてきました。必然的に船積み直前まで作業がずれ込むことも増えてきていて、納期通りに出荷できるかヒヤヒヤする場面も増えてきています。検品員も週後半は毎日深夜まで工場に滞在し、修理の状況や出荷をチェックしてくれています。

業績低迷で、多くの同業他社が固定費削減のために検品体制の縮小を行っていますが、JSC 貿易部ではその考えはありません。日本到着後の品質管理も大切ですが、現地での品質管理はそれ以上に重要です。厳しい状況が続く日中石材業界において、この先もパートナーシップを維持していくためには、持続可能な取引を行うことが大切です。日中双方にとって負担の少ないポジションで品質管理を突き詰めていくことが、日本の墓石業界にとっても、また中国の墓石業界にとっても大切なことだと考えています。

当然ながら、石材店様のご期待に添い、クレームの無い商品をお納めすることが JSC 貿易部と当社検品社員の目標ではありますが、防ぎきれずに石材店様にご迷惑をお掛けすることもあります。都度、現地社員や工場と再発防止策を話し合い、クレームの撲滅に取り組んでおりますので、2022年も引き続きのご愛顧よろしくお願ひ致します。

例年の事ながら、春節明けの注文も積み上がってきており、どの工場も忙しくなっているようです。南安では小さなストライキが行われたとの情報もあります。10%ほどの賃上げ要求があったそうです。工場の生産体制が100%になるのは3月中旬以降との見通しもありますが、今年度も頂いた注文をしっかりとチェックし、クレームの無い「心地良い」商品をお納めし、「心地良い」仕入れ先とさせていただけるよう営業部門ともども頑張っていますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

最後に、まん延防止等重点措置も延長され、感染者数もやや高止まりの状態です。皆様くれぐれもご自愛ください。

2022/03/01